

第7回宮城マスター検定1級試験解答と解説

番号	正解	解説
問1	3 永禄・寛永	伊達政宗は永禄10年(1567年)8月3日米沢で生まれ、寛永13年(1636年)5月24日に江戸で亡くなりました。
問2	4 巧みな水管理	大崎市・色麻町・加美町・涌谷町・美里町の1市4町が申請した「大崎耕土の巧みな水管理による水田農業システム」は、堰や用排水、ため池などの水管理インフラと、それを支える「契約講」などの水管理組織が有機的に機能し、環境保全にも寄与しているとして平成29年3月に国の「日本農業遺産」、同年12月12日に「世界農業遺産」に認定されました。
問3	2 サワールージュ	サワールージュは、平成23年に登録された宮城オリジナルのりんごです。酸味が強く、鮮やかな赤色が特徴でアップルパイ等に使うと美味しく仕上がります。なお、サマーキャンディはいちごの品種です。
問4	2 野蒜(のびる)駅	東松島市にあるJR仙石線旧野蒜駅のプラットホームは震災遺構としての保存が決まり、平成29年に整備されました。旧野蒜駅舎は震災復興伝承館として整備され、震災時の様子や復興の歩みが展示されています。
問5	3 龍鳳丸(りゅうほうまる)	志波彦神社の神輿は、昭和39年に水産業界が新魚市場開設を記念して奉獻したものです。その年の7月、辰年にちなんで龍頭をあしらった龍鳳丸が建造されました。塩釜商工会議所では、平成29年は龍鳳丸のチョコQを製作し、新たなお土産として販売しています。
問6	4 東昌寺	青葉神社は明治7年に創建されました。長年途絶えていた青葉まつりが伊達政宗没後350年の年に復活し、毎年、青葉まつりの日には青葉神社から御神輿が出発して賑わいます。神社の創建にあたっては、東昌寺の敷地の西側部分が青葉神社に提供されました。
問7	3 297m	気仙沼大島大橋は、橋長356m、アーチ支間長297mの鋼中路橋アーチ橋で、支間長はアーチ橋として東日本最長になります。平成30年度に完成予定で、愛称は「鶴亀大橋」に決定しています。
問8	3 細倉當百(ほそくらとうひやく)	「細倉當百」は江戸時代末期の文久3年(1863年)に、細倉鉱山で働く鉱夫の賃金用に発行された貨幣で、鉛製、縦横約6センチ、重さ約170グラムほどの大型貨幣です。現在、細倉鉱山跡のテーマパーク「細倉マインパーク」では、土産品として「細倉當百」を模した最中が販売されています。
問9	1 山田錦	「蔵の華」は、平成9年に古川農業試験場で「山田錦」を母に、「東北140号」を父として、さらに繰り返して「東北140号」を交配して育成されました。
問10	1 火鈴	「火鈴様」は、瑞巖寺に古くから伝承されている火伏せの修法で、僧侶が大きな鈴(火鈴)を鳴らし経を唱えながら松島町内を歩きます。この行事は大晦日の夜9時頃から元日の朝4時頃まで続きます。
問11	4 蔵王ハートランド	蔵王ハートランドは蔵王酪農センター内にあるふれあい牧場で、うさぎや羊、山羊たちと直接ふれあうことができます。宮城蔵王キツネ村は白石市、南蔵王青少年旅行村は七ヶ宿町、みやぎ蔵王セントメリーズスキー場は川崎町にあります。
問12	2 しろのむらさき	多賀城「しろのむらさき」は、紫色に輝くお米「古代米」を使用した新しい多賀城グルメブランドの総称です。多賀城の「城」と古代米(紫黒米)の「紫」を組み合わせてできた言葉です。
問13	3 牟宇姫(むうひめ)	伊達政宗の次女「牟宇姫」は、元和元年(1619年)、12歳で角田領主石川家の石川宗敬に嫁ぎました。嫁入りの際に持参したと伝わる雛人形は、毎年角田市で行われる「かくだ牟宇姫ひなまつり」に合わせて角田市郷土資料館で展示されます。

問14	3	天然スギ	県内のスギ林のほとんどは人工林ですが、自生山は県内唯一といわれる天然スギの自生地です。遊歩道があり、ブナ、トチ、ケヤキなど広葉樹の大木も見られます。一帯は国有林で、環境省の特定植物群落調査の対象地にも指定されています。
問15	2	お立ち酒一大郷町	民謡「お立ち酒」は大和町宮床が発祥の地とされています。宮城県の婚礼では欠かせない民謡で、娘を嫁がせる親の心情を歌ったものです。この民謡の普及と保存伝承のため毎年全国大会が行われており、平成29年で31回目の開催となりました。
問16	3	8試合	東北楽天ゴールデンイーグルスの則本昂大(のりもとたかひろ)選手は、平成29年6月8日、Koboパーク宮城で行われた横浜DeNA戦で、8試合連続となる2桁奪三振を記録し、プロ野球新記録を達成しました。
問17	4	雨水・霜降	神割崎では、例年雨水(2月中旬)と霜降(10月下旬)に、ちょうど岩の間から日の出を望む神秘的な風景を見ることができます。南三陸町と石巻市の境にあり、昔、境界争いをする人々に怒った神様が仲裁のため、岩を二つに割ったという伝説が残っています。
問18	2	村田町	重要伝統的建造物群保存地区は、市町村が歴史的な集落・町並みの保存を図っている地区のうち、国が特に価値が高いと選定した地区です。県内では、「蔵の町並み」として名高い村田町村田地区が唯一選定されています。
問19	4	奥松島グループプライド&ハイキング	「ツール・ド・東北」は、東日本大震災の復興支援と震災の記憶を未来に残していくことを目的とした自転車イベントです。平成29年は開催地に新たに東松島市が加わり、同市の奥松島エリアなどをめぐる震災遺構見学やハイキングも楽しめるようになりました。
問20	2	肘折系こけし	肘折系こけしは、強烈な個性を持つ顔の表情が魅力の一つです。黄・赤・緑の鮮やかな色調で胴のシルエットは鳴子系に近く、肩が張っていますが、全体的に太い直胴が特徴です。
問21	2	1,334m	「日本の蔵王ヒルクライム・エコ」は毎年5月に開催され、新緑に包まれたスタート地点からゴール手前の雪の壁まで景色の移り変わりを堪能しながら自転車ロードレースを楽しむことができます。なお、1,175mは泉ヶ岳、1,500mは船形山、1,716mは刈田岳山頂レストハウス前の標高です。
問22	3	伊達綱宗	善応殿は、第3代仙台藩主・伊達綱宗の御霊屋です。第2代藩主・忠宗をまつる感仙殿とともに、経ヶ峯の西部に建立されましたが、両者は初代藩主・政宗の御霊屋である瑞鳳殿と対するよう正面が東向きになっています。
問23	2	こわだ	マンボウの腸は「こわだ」と呼ばれ、シコシコとした歯ざわりが特徴で、刺身や湯がいて食べます。三陸の夏場の珍味として親しまれています。
問24	1	薬屋	仙台市中心部の東一番丁通り、国分町通り、晩翠通りを結ぶ虎屋横丁は、江戸時代から薬屋「虎屋」の店先に高さ70センチほどの黒い虎の置物があったことが名前の由来となっています。この虎の置物は平成28年7月に仙台市歴史民俗資料館に寄贈されました。明治9年、明治天皇が東北巡幸の際、この置物を撫でたことから「御撫之虎(おなでのとら)」と呼ばれました。
問25	4	栗原市一くりこま山車まつりー8月	くりこま山車まつりは旧栗駒町を中心に7月最終土曜日と日曜日に開催されています。宵祭、本祭の2日間にわたり、歴史と伝統を誇る山車がねり歩く迫力のあるお祭りです。
問26	4	牡蠣(カキ)	「あまころ牡蠣」は、一般的な牡蠣が2年程度かけて養殖するのに対し10ヵ月程度と短く、小ぶりですが、さわやかで甘味が強いことが特徴です。「あたまっこ牡蠣」は、潮の満ち引きの影響で殻の表面が磨かれ白く丸みを帯びたユニークな外観です。ともに、これまで規格外として扱われてきましたが、実入りが良く、うま味成分も多く含まれていて地元で愛されています。

問27	1	七ヶ宿	「水と歴史の館」では、歴史民俗資料や七ヶ宿ダム湖底に沈んだ集落の風景画などが展示されており、道の駅七ヶ宿に隣接する場所に設置されています。
問28	4	ゴボウ	ふすべ餅とは、焼いたドジョウとすりおろしたゴボウに、トウガラシや醤油で味を付け、餅にからめたものです。栗原市内では、このほかにもえび餅など、50種類以上の餅料理があると言われています。
問29	4	岩井崎	岩井崎はかつて仙台藩御塩場として塩づくりが行われていた歴史のある場所です。塩づくり体験館では、昔の塩づくりについて学びながら、海水を使ったミネラル豊富な自然塩を作る体験ができます。
問30	2	4.6m	多賀城市の東日本大震災モニュメントは、震災で犠牲となられた方々の追悼、震災の経験・教訓の伝承、減災の誓いを目的に建てられたものです。中央の柱は市内を襲った津波の最大の高さと同じ4.6mで、震災の記憶の一部を後世へ継承していくものになっています。
問31	1	およそ400年の歴史がある	鎌先温泉は、およそ600年前に鎌の先で湯を掘り当てたことからついた名前だと言いつたわれています。鎌先温泉では、温泉街の舗道にフットライトが設置されており、夜になると道や宿がぼんやりと照らされ、幻想的な雰囲気になります。
問32	3	二階堂トクヨ	二階堂トクヨは、大正元年にイギリスのキングスフィールド体操専門学校に留学し、運動の楽しさを体得しました。帰国後大正11年に「二階堂体操塾」を開き多くの卒業生を輩出しています。なお、丹下ウメほか2名は東北帝国大学(現東北大学)で日本初の女子学生となった方々です。
問33	3	砂金	県の鉱物は、天平21年(749年)に現在の涌谷町で日本で初めて金が「砂金」で産出されたことに因って「砂金」となりました。涌谷町の「天平ろまん館」では砂金採りを体験することができます。
問34	1	カサンドラ宮城	「センダイガールズプロレスリング」は、平成18年に旗揚げされた、仙台を本拠地とする女子プロレスリング団体です。女子プロレスリングとしては初めて地域密着型の団体として誕生し、略称の「仙女」の名で広く市民から親しまれています。その中でも、平成27年に悪役に転向した「カサンドラ宮城」は、注目の存在になっています。
問35	1	①水に漬ける ②恥ずかしい ③かわいそう	①「うるかす」は「水に漬けて柔らかくする」 ②「おしよすい」は「恥ずかしい」 ③「もぞこい」は「かわいそう」
問36	—	吉林(省)	県では、昭和62年に中国の吉林省と初めて友好提携を締結し、様々な交流事業を実施しています。その後、平成9年にアメリカのデラウェア州、さらに平成13年にイタリアのローマ県とも、それぞれ友好提携を締結しました。
問37	—	ハマレ	「ハマレ」は、仲間になるという意味の方言「はまる」、いくつもの「浜」が集まった地であること、イタリア語で海を表す「マーレ」を掛け合わせた造語です。平成29年3月3日にリニューアルオープンした「南三陸さんさん商店街」とともに、町の顔として地域復興のけん引が期待されます。
問38	—	1→4→2→3	1は天正13年(1585年)、2は天正18年(1590年)、3は天正19年(1591年)、4は天正17年(1589年)の出来事です。
問39	—	鳴子(ダム)	鳴子ダムは高さ94.5m、幅215mで、日本で初めて日本の技術者だけで建設されたアーチ式コンクリートダムです。5月に行われる雪解け水を利用した「すだれ放流」が有名です。
問40	—	みやぎサーモン	「みやぎサーモン」は、水揚げ時に「活け締め」や「神経締め」の処理を施したギンザケを指し、ギンザケ本来の美味しさを閉じ込めた宮城県産養殖ギンザケの最高級ブランドです。なお、宮城県は養殖ギンザケの発祥の地として、40年以上の歴史があり、国内生産量の9割を占めています。

問41	—	悠里館	悠里館(ゆりかん)は平成6年に開館した公共施設で、1階に郷土資料館、2階に図書館があります。5階の天守閣展望台からは町や太平洋を一望することができます。
問42	—	回文(廻文)	作並温泉では、廻文師・仙台庵との縁から、上から読んでも下から読んでも同じ文になる「回文」が定着し、毎年2月の土曜日と日曜日に全国大会が行われます。
問43	—	唐桑半島—2, 4 大島—1, 3	唐桑半島にあるのが九九鳴き浜、大島にあるのが十八鳴浜で、ともに砂浜を歩くとクツ、クツと良い音を出す鳴り砂の浜として有名です。唐桑半島の先端にある御崎は、古生代の黒色粘板岩の断崖が続くジオスポットで、近くの御崎神社では縁起物の「はじき猿」が作られ、唐桑半島ビジターセンターで販売されています。大島の南端の岬にある龍舞崎では、海食による奇岩に波が打ち寄せる様を見ることができ、まさに龍が舞い上がるようです。
問44	—	猫	丸森町では、養蚕が盛んだった頃、蚕をねずみから守ってくれる猫を大切に、「猫神様」としてまつっていました。町内では、猫の形を浮き彫りにした石碑や石像、文字が掘られたものなどが70基以上発見されています。町では猫神様巡礼の観光ツアーも企画され、観光名所としてPRしています。
問45	—	多聞山	松島湾を一望できる大高森、富山、扇谷、多聞山は「松島四大観」と呼ばれ、このうち多聞山は七ヶ浜町に所在しています。太平洋から打ち寄せては砕け散る波が眺められ、その雄大さから偉観の眺めと呼ばれています。
問46	—	小麦	登米市観光PRキャラクター「はっトン」は「男の子でもなく女の子でもない小麦の子」で、誕生日は8月10日、体重は8トンです。帽子はおわん、ほっぺはにんじん、口は登米市の鳥「白鳥」から、腕は油麩、足はねぎ、しっぽはじゃがいも、からだははっとなでできていて、登米市の形をしています。
問47	—	大橋	「大橋」は、藩政時代に伊達家臣の登城口として広瀬川に架けられたのが始まりです。大橋近くの西公園は、桜の名所として知られているほか、年間を通してイベントが開催されています。
問48	—	しろとり せいご	白鳥省吾は、大正初期の日本詩壇を代表する詩人です。平成10年に開館した白鳥省吾記念館では、白鳥省吾の原稿や遺品などが展示されているほか、作詞した校歌などの作品を聴くことができます。
問49	—	やまびこ(吊り橋)	「やまびこ吊り橋」は、東北一の長さを誇る吊り橋と言われています。吊り橋からは、不忘山を望む絶景が楽しめます。
問50	2, 3, 4		伊具郡は丸森町、本吉郡は南三陸町、牡鹿郡は女川町のそれぞれ1町のみです。加美郡は加美町と色麻町の2町があります。